

日本の火山活動概況 (2012年1月~2月)

気 象 庁



図 1. 2012年1月~2月に目立った活動があった火山

富士山 (35° 21' 39" N, 138° 43' 39" E)

2011年3月15日22時31分に発生した静岡県東部(富士山の南部付近)の地震(マグニチュード6.4)以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加した。その後、地震活動は低下してきている。

2月10日に富士山北西麓の3合目付近(標高1,760m付近)で湯気が出ているとの通報を受けて、2月11日、16~17日及び27日に現地調査を実施した。その結果、各調査日とも道路の切り通し面の岩の隙間(複数箇所)からごく弱い湯気が出ているのを確認した。熱電対温度計による観測では、湯気の温度は最高でも10℃程度であった(外気温は-10℃~0℃)。噴気音や硫黄臭は確認されなかった。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていない。

GPS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められなかった。

三宅島 (34° 05' 37" N, 139° 31' 34" E)

噴煙高度は火口縁上100~400mで経過した。

島内で実施した、COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中3回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり900~1,200トンと、多量の火山ガス放出が続いている。三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いている。

1月18日、22日及び30日に振幅の小さな火山性微動が計5回(継続時間:約40秒~100秒)発生したが、その他の観測データに特段の変化はなかった。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS連続観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続している。島の南北を挟む基線では、2006年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられている。

硫黄島 (24° 45' 02" N, 141° 17' 21" E (摺鉢山))

海上自衛隊硫黄島航空基地隊から、島西部の旧火口(通称:ミリオンダラーホール)で泥噴出があったとの通報が2月10日に入り、これを受けて、2月14日から15日にかけて海上自衛隊の協力により現地調査を実施した。主な噴出口はほぼ南北方向に並んで3つ存在し、そのうち最も大きなものは深さ約13mであった。そこから南東方向に最大100m程度の距離まで泥が飛散しているのを確認した。このような状況から、上旬にごく小規模な水蒸気爆発が発生したと考えられるが、これに対応する震動波形等は確認できなかった。赤外熱映像装置による観測では、各噴出口の底の部分に高温域はみられなかったが、各噴出口の縁から数m離れた所に高温の場所が数箇所あり、熱電対温度計による観測では、最高で96.6℃を観測した。

地震活動は2011年2月末頃から比較的活発な状態が続いている。

国土地理院のGPS観測結果では、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2011年1月末頃から隆起速度が増加していたが、同年12月下旬頃から隆起傾向はやや鈍化している。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられる。

福徳岡ノ場 (24° 17.1' N, 141° 28.9' E)

1月27日、28日及び30日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近の海

面に火山活動によるとみられる湧出点付近から、乳白色、黄緑色、薄青色及び薄緑色の変色水が、長さ100~300mにわたって確認された。

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測でも、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

霧島山 (新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))

新燃岳では、今期間、噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火口縁上概ね100m (最高高度は600m)の高さで経過した。

1月17日に鹿児島県、1月24日に陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第1飛行隊、2月10日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊、2月21日に九州地方整備局の協力を得て実施した上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩の大きさ(直径約600m)や形状、また火口内の噴気の状態に特段の変化がないことを確認した。主に溶岩の北側及び東側から白色の噴煙が上がっており、二酸化硫黄を含む青白色のガスも一部確認した。1月17日の調査では、2008年8月の噴火時に形成された西側斜面の割れ目から白色の噴気が数m上がっていたが、1月24日、2月10日及び2月21日の調査では噴気は確認されなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内及びその周辺の地表面温度分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩の縁辺が比較的高温な状態であった。また、西側斜面の割れ目では、一部やや温度の高い部分が引き続き認められた。

火山性地震の月回数は、1月が797回、2月が610回でやや多い状態で経過した。震源はこれまでと同様に、主に新燃岳付近の海拔下0~2kmに分布した。

振幅が小さく、継続時間の短い火山性微動が2月に1回発生した。

国土地理院のGPS観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月頃から鈍化し、その後停滞している。

新燃岳周辺のGPS連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中3回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり200~500トンと少ない状態であった。

桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が1月は190回(そのうち爆発的噴火は172回)、2月は103回(そのうち

爆発的噴火は93回)と活発な噴火活動が継続した。また、大きな噴石が3合目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達した爆発的噴火は、12回発生した。火砕流は、確認されなかった。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、2月13日にごく小規模な噴火が発生した。ごく小規模な噴火の発生は、2011年12月13日以来であった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中5回実施)では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり1,800~2,900トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2011年11月頃から山体がわずかに隆起する傾向が続いていたが、2月に入り停滞している。

GPS連続観測では、2011年9月頃からわずかな伸びの傾向が続いている。また、国土地理院のGPS観測結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は、2011年12月は56万トン、2012年1月は51万トンであった。

薩摩硫黄島 (30° 47' 35" N, 130° 18' 19" E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。

同火口では2月18日から19日にかけて夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測した。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

口永良部島 (30° 26' 36" N, 130° 13' 02" E)

火山性地震は、2011年12月11日から多い状態となったが、12月25日頃から回数は緩やかに減少し、1月5日以降は少ない状態で経過した。

火山性微動は観測されなかった。

遠望観測では、新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上100m以下の高さで経過した。

1月11日に実施した現地調査では、赤外熱映像装置による観測で、前回(2012年12月)と比較して新岳山頂付近及び西側斜面の地表面温度分布に特段の変化はなかった。

1月12日及び13日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり50トン及び100トンと、前回(2011年12月9日:200トン)の調査と比較して、

増加は認められなかった。

GPS 連続観測では、新岳を挟む基線で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていたが、2011 年 9 月頃から鈍化している。

諏訪之瀬島 (29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E (御岳))

御岳^{おたけ}火口では、1 月 12 日及び 2 月 6 日に爆発的噴火が発生するなど、噴火活動は活発に経過した。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過した。

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 岡垣晶子)

日本の火山活動概況 (2012 年 3 月～4 月)

気 象 庁



図 1. 2012 年 3 月～4 月に目立った活動があった火山

恵山 (41° 48′ 17″N, 141° 09′ 58″E)

3 月 16 日に北海道開発局、3 月 23 日に第一管区海上保安本部の協力で実施した上空からの目視及び赤外熱映像装置による観測では、X、Y 火口の噴気や地熱域の状況に特段の変化はなかった。

3 月 30 日 23 時 22 分頃に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が発生し、直後から 3 月 31 日未明まで微小な火山性地震が一時的に増加した。微動発生時の噴気

状況は雲のため不明であったが、空振計及び地殻変動データに特段の変化はなく、4 月 2 日に実施した現地調査では、赤外熱映像装置による観測で、恵山溶岩ドーム周辺の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められなかった。

地震活動及び噴気活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

草津白根山 (36° 37′ 22″N, 138° 31′ 55″E)

4 月 1 日から 2 日かけて湯釜の南付近が震源と推定される振幅の小さな火山性地震が一時的に多発した。また、それ以外の期間も振幅の小さな火山性地震の一時的な増加が時々みられた。

3 月 8 日に実施した現地調査では、水釜火口北側斜面及び北側噴気地帯において、引き続き赤外熱映像装置で高温域が確認されたが、前回の調査 (2011 年 6 月 27 日) と比べ特段の変化は認められなかった。

今期間、地殻変動には特段の変化はみられないが、湯釜火口内の北壁等では引き続き熱活動がみられている。

三宅島 (34° 05′ 37″N, 139° 31′ 34″E)

噴煙高度は火口縁上 100～300 m で経過した。

島内で実施した、COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測 (期間中 4 回実施) では、二酸化硫黄放出量は一日あたり 500～900 トンと、やや多量の火山ガス放出が続いている。三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いている。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS 連続観測では、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続している。島の南北を挟む基線では、2006 年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられている。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

3 月 7 日 08 時 20 分頃に島西部の旧噴火口 (通称: ミリオンダラーホール) で泥噴出が発生したと海上自衛隊硫黄島航空基地隊から報告があった。同日の現地調査では、13 時 25 分頃まで、ごく小規模な水蒸気爆発に伴う断続的な噴気と泥・小さな噴石等の噴出を確認したが、その後は収まった。また、この爆発に伴い、11 時 53 分頃から 13 時 25 分頃まで火山性微動が 1 回 (継続時間: 約 90 分) 観測された。噴出口は前回の噴出 (2012 年 2 月上旬) と同じ場所で、そこから北西方向へ最大 100m 程度の距離まで泥が飛散しているのを確認した。噴気は最大で約 20m の高さまで上がり、小さな噴石等は 10 数 m の高さまで上がった後、約 20m 四方へ飛散するのを確認した。8 日朝には新たな泥噴出の痕跡を確認、噴出口は泥で満たされており、赤外熱映像装置による観測で、壁面付近に高温域が認められた。また、最も北側に位置する噴出口から数 m 離れた場所の温度を熱電対温度計で計測したところ、前回 (2012 年 2 月 14 日~15 日) より数℃から 10 数℃高い (約 100℃) 状態であった。

島西部の阿蘇台陥没孔では、前回の現地調査時 (2011 年 11 月 16~18 日) と比べて、孔内の水位が上昇していることを確認した。赤外熱映像装置による孔底の観測では、泥水の温度は前回同様、約 100℃と推定され、間欠的な熱水の噴出を確認した。泥水の噴出に伴って立ち上る噴気は前回より多量で、孔の上端から最大約 20m の高さまで上がり、弱い腐卵臭を伴っていた。

東山噴気・地熱地帯では、赤外熱映像装置による観測で、前回の現地調査時と同様、高温域を確認した。地表面から約 10cm の表層地中温度を熱電対温度計で測定したところ約 100℃と、前回と変化はなかったが、噴気量は多く、周辺では硫黄臭を確認した。

金剛岩、硫黄ヶ丘及び摺鉢山など、その他の地域では、噴気の状態及び地熱等の状況は、前回の現地調査で確認された熱活動と特段の変化は認められなかった。

4 月に入り、5 日昼過ぎに火山性微動が、同日夕方から 6 日昼前にかけて、噴火に伴うと推定される断続的な震動と空振が観測された。5 日午後から 6 日午後にかけて、島西部の旧噴火口 (通称: ミリオンダラーホール) から間欠的な音の発生とガスの噴出も確認されており、この期間に、ごく小規模な水蒸気爆発が発生したと推定される。

また、4 月 27 日から 28 日にかけて、国土地理院の地殻変動観測で通常より大きな隆起が観測され、地震活動も 27 日から活発な状態となった。その後、地殻変動は隆起から沈降に転じ、地震活動もやや低下傾向となったが、28 日と 30 日に一時的な微小地震の活発化がみられ、29 日以降は火山性微動が断続的に観測されるなど、火山活動は活発な状態が続いた。そのような中で 29 日から 30 日にかけて島の北東沖で変色水域が確認され、同海域で海底噴火が発生した可能性があると考えられる。30 日には、島北部で高さ 10m 程度の噴気も新たに確認された。

福德岡ノ場 (24° 17.1′ N, 141° 28.9′ E)

3 月 6~9 日に海上自衛隊、気象庁 (海上自衛隊の協力による) 及び海上保安庁が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる湧出点付近から、濃乳白色、黄緑色、薄青色の変色水が、長さ 200m にわたって確認された。また、4 月 19 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、同湧出点付近から湧き出る直径約 30m のほぼ円形状で、乳白色及び青色の変色水が確認された。

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測でも、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

霧島山 (新燃岳) (31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E (新燃岳))

新燃岳では、今期間、噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火口縁上概ね 50m (最高高度は 400m) の高さで経過した。

3 月 7 日に航空自衛隊航空救難団芦屋救難隊、3 月 13 日に宮崎県の協力を得て実施した上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩の大きさ (直径約 600m) や形状、また火口内の噴気の状態に特段の変化がないことを確認した。主に溶岩の北側及び東側から白色の噴煙が上がっており、二酸化硫黄を含む青白色のガスも一部確認した。赤外熱映像装置による観測では、火口内及びその周辺の地表面温度分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩の縁辺が比較的高温な状態であった。また、西側斜面の割れ目では、噴気は認められなかったが、一部やや温度の高い部分が引き続き認められた。

火山性地震の月回数は、3 月が 368 回、4 月が 356 回でやや多い状態で経過した。震源はこれまでと同様に、主に新燃岳付近の海拔下 0~2km に分布した。

火山性微動は今期間観測されなかった。

国土地理院の地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地

下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月頃から鈍化し、その後停滞している。

新燃岳周辺のGPS連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中2回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたりいずれも100トンと少ない状態であった。

桜島 (31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は3月が128回(そのうち爆発的噴火は112回)、4月は127回(そのうち爆発的噴火は107回)であった。3月12日の爆発的噴火では、大きな噴石が2合目(昭和火口から2km付近)まで達した。大きな噴石が3合目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達する爆発的噴火が7回発生した。また、ごく小規模な火砕流が、3月22日00時55分に発生し、東へ約300m流下した。火砕流の発生は、2011年10月26日以来であった。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、時々ごく小規模な噴火が発生した。噴煙の最高高度は、火口縁上400mであった。3月22日の夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測した。同火口で火映が観測されたのは、2009年5月19日以来であった。

4月5日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査で、昭和火口の火口底に新たに上昇してきたとみられる溶岩(直径50~60m)が確認され、溶岩の中央部には赤熱した領域が認められた。赤外熱映像装置による観測でも、今回確認した溶岩に対応した部分に高温の領域が認められた。昭和火口の火口底では、2011年5月31日及び2011年7月11日にも溶岩が確認されている。昭和火口では夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映が発生していることから、溶岩が火口底付近まで繰り返し上昇していると考えられる。また、前回火口底が確認できた7月11日と比べ火口底がやや浅くなっていた。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中5回実施)では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり1,800~2,900トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2011年11月頃から山体がわずかに隆起する傾向が続いていたが、2012年2月以降、停滞している。

GPS連続観測では、2011年9月頃からわずかな伸びの傾向が続いている。また、国土地理院の地殻変動観測

結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島県の降水量観測データをもとに解析した降水量は、2012年2月は52万トン、2012年3月は81万トンであった。

薩摩硫黄島 (30° 47′ 35″N, 130° 18′ 19″E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を2回観測した。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

口永良部島 (30° 26′ 36″N, 130° 13′ 02″E)

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過した。

遠望観測では、新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上100m以下の高さで経過した。

GPS連続観測では、新岳を挟む基線で2010年9月頃から伸びの傾向が続いていたが、2011年9月頃から鈍化している。

諏訪之瀬島 (29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E (御岳))

御岳火口では、3月6日に爆発的噴火が発生するなど、噴火活動は活発に経過した。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過した。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 齋藤直子)

○人事公募

【京都大学防災研究所】

1. 公募人員: 准教授1名
2. 所 属: 地震・火山研究グループ 地震予知研究センター 海溝型地震研究領域
3. 研究内容等: 地殻変動に関する研究を基礎として、海溝型地震と火山活動との相互作用を含め広い視野に立った広域テクトニクスの観点から地震発生予測の高度化に資する研究を推進する。また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する

予定である。

4. 任用時期：可能な限り早い時期
5. 応募資格：博士の学位を有すること
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えることが望まれる。
6. 提出書類：次の(1)～(6)各一式
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧(査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの。)
 - (3) 主要論文別刷(コピー可)5編
 - (4) 研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
 - (5) 今後の研究計画及び抱負(A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと。また、教育についても言及すること)
 - (6) 推薦書(または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先)
7. 公募締切：平成24年5月14日(月)【必着】
8. 書類提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室
地震予知研究センター海溝型地震研究領域准教授候補者選考委員会 宛
(封筒の表には「教員応募書類在中」と朱書し、郵便の場合は書留にすること)
9. 問い合わせ先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
地震予知研究センター海溝型地震研究領域准教授候補者選考委員会
e-mail：apply_staff@uji.kyoto-u.ac.jp
(封書またはEメールに限る)
10. その他：応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

- =====
1. 公募人員：准教授 1名
 2. 所 属：地震・火山研究グループ 地震防災研究部門 地震テクトニクス研究分野
 3. 研究内容等：地殻・上部マントルの不均質構造に関する研究を地球電磁気学、地震学等の地球物理学的な手法により実施し、地震発生場への応力蓄積などの地震発生準備過程の解明に寄与することにより、長期的視点から地震災害の軽減に資する。また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
 4. 任用時期：可能な限り早い時期

5. 応募資格：博士の学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
 6. 提出書類：次の(1)～(6)各一式
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧(査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの)
 - (3) 主要論文別刷(コピー可)5編
 - (4) 研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
 - (5) 今後の研究計画及び抱負(A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと。また、教育についても言及すること)
 - (6) 推薦書(または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先)
 7. 公募締切：平成24年5月14日(月)【必着】
 8. 書類提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
地震防災研究部門 地震テクトニクス研究分野 准教授候補者選考委員会 宛
(封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること)
 9. 問い合わせ先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
地震防災研究部門 地震テクトニクス研究分野 准教授候補者選考委員会 宛
e-mail：apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp
(封書あるいは電子メールに限る)
 10. その他：応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。
- =====
- (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月16日送信しました)

【福岡大学国際火山噴火史情報研究所】

1. 公募する職種と人員
PD 研究員 1名
2. 研究所の目的と主な事業内容
当研究所は、噴火史研究に関する基礎的な学術情報を、理学と工学が連携することによりデータベース化・知的財産として、さらに学外の産学官諸機関とも連携して、これらの多岐にわたる活用を目的とする。
具体的な事業内容として、1. 噴火史研究に関する調査・研究、2. データベースの構築、3. 研究成果お

よびデータベースの利用（アウトリーチ，社会への還元など），4. 研究集会・普及行事の開催，5. 学術論文誌（Eruptive History and Informatics）の刊行を行う。

3. 応募資格

- (1) 博士または Ph.D.の学位を有する方
- (2) 採用予定時までに博士または Ph.D.の学位取得が確実な方

4. 研究内容

当研究所の目的に沿って，噴火史に関する研究（地質学，岩石学，年代学，地熱学など），データベース構築に関する研究（情報科学など），それらの社会還元に関する研究（防災科学など）を研究所構成員のいずれかと共同で進めると共に，研究所の諸事業にも積極的に関与する。特に学術論文誌「Eruptive History and Informatics」の編集運営に参画し，年度末に研究成果を同誌に報告する。

5. 採用予定期間

平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日（10ヶ月間）開始日は，選考状況により前後することがある。平成 25 年度以降の任期延長については，当研究所の外部資金の獲得状況による。

6. 給与

月額 30 万円（税込）。詳細は，直接問い合わせること。

7. 公募締め切り

平成 24 年 3 月 21 日（水）必着

8. 選考方法

選考は，書類審査にて行い，必要に応じて面接・インタビューを行うことがある。

9. 提出種類

- (1) 履歴書（本学様式，連絡先に E-mail アドレスを明記し，学会賞などの受賞や競争的資金の獲得状況も記すこと）
- (2) 研究業績リスト（本学様式，著者名をすべて記載，原著論文，総説，著書，その他などに分け，査読の有無を明示すること）
- (3) 採用後の抱負（業績リストと関連づけて 2000 字程度にまとめる）
- (4) 主要論文の別刷（3 編以内，コピー可，学位論文および投稿中の論文も含む）
- (5) 応募者について問い合わせ可能な方 2 名の氏名および連絡先

10. 書類送付先および問い合わせ先

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1
福岡大学理学部地球圏科学科 奥野 充
電話：092-871-6631（内線：6289），
E-mail：okuno@fukuoka-u.ac.jp

応募書類は，必ず書留などで郵送し，封筒の表に「国際火山噴火史情報研究所 PD 研究員の公募書類」と朱書すること。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 28 日送信しました）

【神奈川県温泉地学研究所】

1. 公募する職種と募集人数

特別研究員 1 名

2. 研究テーマ

箱根火山の防災に資する研究（火山構造解明，活動メカニズムの解明，強震動観測を含む活動監視の強化手法の開発等）

3. 応募資格

- (1) 学歴等：博士号取得者又はこれに準ずる研究能力を有する人
- (2) 専攻等：上記研究テーマを実施する能力を有する人
- (3) 国籍：外国籍の人も応募できます。ただし，就職が制限される在留資格の人は採用されません
- (4) その他：募集要項を参照

4. 身分，待遇等

神奈川県非常勤職員として雇用します

給与は，平成 23 年度実績で月額 255,800 円（平成 24 年度の月額は，正規職員の給与改定に準じて変更される見込です）

5. 雇用期間

原則として，平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日を予定（最長 2 年間の延長あり）

6. 公募の締め切り

平成 24 年 3 月 14 日（水）〈必着のこと〉

7. 書類提出先，連絡先

神奈川県温泉地学研究所
〒250-0032 小田原市入生田 586
電話 0465（23）3588

8. その他

提出書類，募集要項などの詳細は，当所の HP（下記アドレス）を参照してください

<http://www.onken.odawara.kanagawa.jp/modules/smartsection/item.php?itemid=24>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 8 日送信しました）

【九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター】

募集人員：1 名

研究分野：地震および火山の観測研究。

地震火山現象に興味を持ち、当センターの研究者と協力して、観測と研究に積極的に取り組める方。なお、応募にあたっては、当センターの教員と事前に連絡を取り、研究計画について相談することが望ましい。

応募資格：着任の時点で、博士の学位を有すること。

平成24年4月1日時点で満35歳未満であること。

勤務地：地震火山観測研究センター（長崎県島原市）

着任時期：平成24年5月1日以降の出来る限り早い時期

採用予定期間：原則として平成26年3月31日まで（2年間）

待遇等：(1) 身分：研究機関研究員

(2) 給与：九州大学の給与規程による

応募書類：1. 履歴書（氏名、生年月日、住所、連絡先、高校入学以降の学歴、学位、職歴、資格、賞罰など）

2. 業績リスト（論文は査読の有無で分類、学会発表など）

3. 研究の概要および今後の研究の抱負（各A4、1枚程度）

4. 主要論文3編以内（コピーも可）応募締切：平成24年4月1日（日）必着 PDF ファイルによる送付も可

（ただし、ファイル容量が大きくなる場合は、要事前相談）

応募書類送付先（問合せ先も同じ）：

〒855-0843 長崎県島原市新山2丁目5643-29
九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター 清水 洋

（電話：0957-62-6621/

e-mail：hshimizu@kyudai.jp）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月23日送信しました）

○火山学会のホームページ関連のサーバが変わります。

- (1) 火山学会のホームページのアドレスが2月1日から <http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/> に変更になります。ブックマークやリンクを設定していた方は、アドレスの変更をお願いいたします。なお、移行期間として、2月1日から2月29日までは、これまでの <http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/> の情報更新もおこないますが、それ以降は、こちらのホームページは閉鎖します。

- (2) 各種の申し込みに対して自動送信される受領

メールのアドレスが kazan@wwwsoc.nii.ac.jp から office@kazan-g.sakura.ne.jp にかわります。

メールソフトでフィルタの設定をしている場合には、office@kazan-g.sakura.ne.jp からのメールを受け取れるように設定変更をお願いします。また、office@kazan-g.sakura.ne.jp は送信専用のメールアドレスのため、こちらには返信メールを送らないようお願いします。

- (3) 学会事務局のメールアドレスはこれまで通り、kazan@khaki.plala.or.jp です。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月26日送信しました）

○九州大学教員（助教）の募集のお知らせ

職種・人員：固体地球惑星科学講座 助教 1名

専門分野：観測地震・火山学

（地震、地殻変動、電磁気などの地球物理学的手法による地震・火山現象の観測に基づき、同講座所属の教員と協力して、主に地震発生・火山噴火の過程や機構を研究し、かつ教育に熱意のある方）

着任地：理学研究院附属地震火山観測研究センター（長崎県島原市）

着任時期：決定後なるべく早い時期

応募資格：博士の学位を有すること

提出書類：下記の書類全てを印刷するとともに、CD-ROMにPDFファイルをコピーし同封すること。

- (1) 履歴書
- (2) これまでの研究概要（A4用紙2頁以内）
- (3) 研究業績リスト（査読のある原著論文、総説、著書、その他に区分）
- (4) 主要原著論文3編以内の別刷又はコピー（研究業績リストに○印を付す）
- (5) 研究に対する抱負（A4用紙2頁以内）
- (6) 教育に対する抱負（A4用紙1頁程度）
- (7) 応募者について意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先、並びに応募者との関係

応募締切：平成24年5月31日（木）必着

書類送付先（問合せ先も同じ）：

〒855-0843 長崎県島原市新山2丁目5643-29
九州大学 大学院理学研究院 附属地震火山観測研究センター 清水 洋

（電話：0957-62-6621/

e-mail：hshimizu@kyudai.jp）

その他

- (1) 提出書類のうち、(4) 以外は全てA4用紙を使用

すること。

- (2) 封筒に「応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送のこと。
- (3) 提出書類は返却しません。審査後、責任を持って処分します。
- (4) 選考過程において、講演をお願いし面接を実施することがあります。
- (5) 男女共同参画社会基本法（平成 11 年法律第 78 号）の精神に則り、教員の選考を行います。
- (6) 地震火山観測研究センターおよび地球惑星科学部門の現員と研究活動については、以下の URL を参照のこと。

<http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/sevo/staff/index.html>

<http://www.geo.kyushu-u.ac.jp/researcher/fields/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 4 日送信しました）

【東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻】

公募要項

1. 職名および募集人員：准教授 1 名。
2. 所属：東北大学大学院理学研究科 地球物理学専攻 固体地球物理学講座。
3. 研究教育内容等：地震学的手法をもとにした固体地球の内部構造およびダイナミクスなどに関する基礎研究を進める。理学部宇宙地球物理学科および大学院理学研究科地球物理学専攻における教育と研究指導を担当する。
4. 応募資格：博士の学位を有し、研究と教育への情熱と優れた業績を有する方。国籍は問わないが、日常的に日本語が使えることが望まれる。
5. 着任時期：2012 年 10 月 1 日を目処に、できるだけ早い時期。
6. 応募方法：自薦または他薦。
7. 提出書類
 - (1) 履歴書（学歴と職歴）
 - (2) 研究論文等リスト（査読有論文、査読無論文、総説、著書等に分類）。
 - (3) 主たる査読有論文 5 編の別刷（コピー可）。
 - (4) 研究業績の概要（A4 用紙 2 枚以内）。
 - (5) 着任後の研究と教育の計画と抱負（A4 用紙 2 枚以内）。
 - (6) 自薦の場合は、応募者について照会可能な方 2 名の氏名と連絡先（住所、電話、e-mail）。他薦の場合は、推薦書その他に上記事項 (1) - (4) の概要がわかる書類。
8. 応募・推薦の締切：2012 年 6 月 29 日（金）（必着）。

封筒には「教員応募書類」と朱書きし、必ず書留で郵送して下さい。応募書類は返却いたしません。

なお、応募書類に含まれる情報は、選考および採用以外の目的には使用いたしません。

9. 書類提出先

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6 番 3 号
東北大学大学院 理学研究科 地球物理学専攻長
岩崎俊樹 宛

Tel : 022-795-5779; Fax : 022-795-7758

E-mail : iwasaki at wind.gp.tohoku.ac.jp (at を @ に読み替えて下さい)

10. 問い合わせ先

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6 番 3 号
東北大学大学院 理学研究科 固体地球物理学講座
西村太志

Tel : 022-795-6531; Fax : 022-795-6783

E-mail : nishi at zisin.gp.tohoku.ac.jp (at を @ に読み替えて下さい)

11. 固体地球物理学講座の概要

当講座は、明治 44 年の東北大学（理科大学）創立時の物理学科に起源を持ち、昭和 20 年に地震学講座として整備され、平成 6 年の大学院重点化に伴って固体地球物理学講座へと移行した。平成 8 年には、科学技術庁 防災科学技術研究所（現在の独立行政法人 防災科学技術研究所）を連携先として連携併任分野（現在の連携委嘱分野）が発足した。現在、地震・噴火予知研究観測センターと協力しながら教育・研究を行っている。詳しくは、当講座のホームページ <http://www.zisin.gp.tohoku.ac.jp/index-j.html> をご覧ください。

© 2012 年 4 月 1 日現在の構成員

教 授：西村太志

教 授（連携委嘱）：藤原広行（防災科学技術研究所）

准教授：本公募対象

准教授（連携委嘱）：藤田英輔（防災科学技術研究所）

助 教：中原 恒、山本 希

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 27 日送信しました）

【北海道大学】

応募資格

- ・博士号取得後 10 年以内または同程度の研究経歴を有する若手研究者であること（PhD など外国での同等の学位を含む）
- ・40 歳未満であること
- ・英語に堪能で英語による講義・研究指導ができるこ

と

募集分野：理学研究院地球惑星システム科学分野

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/sys-web/sys-web/>

次の(1)、(2)、または(3)の研究分野：(1) 地球生命圏の多様性と進化の研究、(2) 火山成長過程、火山深部のマグマプロセスおよび噴火プロセスの研究、(3) 地殻・上部マントルの動的過程の研究。赴任後は、地球環境史研究グループ、岩石学・火山学研究グループあるいはジオテクトニクス研究グループと共同して意欲的に研究を推進できる方。また、学部・大学院の教育および研究指導を在任教員と協力して行える方。フィールドワークを研究の上での重要な手法の一つとする人が望ましい。

人 員：1名

雇用条件

* テニユアトラック助教として、平成 29 年(2017 年) 3 月 31 日まで任期付き雇用。

* 平成 26 年度(2014 年度)に中間評価を行い、テニユアトラック・ポストとしての継続可否を決定します。また、中間評価後、任期終了時まで、所属部局における第一次テニユア審査および人材育成本部リーダー育成推進委員会における第二次テニユア総合審査評価を行い、テニユア職(准教授等)採用可否を決定します。

* 給与：本学規定に基づき経験等により決定する。

研究環境

研究費は、初年度にスタートアップ経費として1,000 万円、次年度 500 万円を支給予定。研究スペースは、大学院理学研究院内で自立的な研究環境を提供。また、共通機器としてのオープンファシリティ等の利用が可能。

公募締切

2012 年 6 月 25 日(月) 必着(応募書類は郵送)

選考スケジュール

第一次審査 7 月 2 日～8 月上旬、第二次総合力審査 8 月下旬、選考結果通知 9 月上旬を予定。

採用予定時期

2012 年 9 月 15 日～2012 年 10 月 15 日の間のできるだけ早い時期。

提出書類

- ・履歴書(写真添付)・業績リスト(査読有り無しに分ける)・代表論文の別刷またはコピー 5 編程度
- ・これまでの研究概要(2000 字程度)・研究教育に関する抱負(2000 字程度)・その他(受賞歴、国際学会発表等)
- ・所見を求め得る方 2 名の氏名と連絡先

テニユアトラック教員応募用紙をダウンロードし提出書類に添付ください。

書類提出先

* 提出書類は郵送

〒001-0021 札幌市北区北 21 条西 10 丁目

北海道大学創成研究機構リーダー育成ステーション “L-Station”宛

TEL：011-706-9181, 9283 FAX：011-706-9272

Email：lstation@cris.hokudai.ac.jp

[本公募に関する問い合わせ先]

北海道大学大学院理学研究院 自然史科学部門

教授 塚本尚義

電話：011-706-9173 Fax：011-706-9173

E-mail：yuri@mail.sci.hokudai.ac.jp

詳しくは、以下のホームページをご参照ください。

北大テニユアトラック事業

<http://www.cris.hokudai.ac.jp/tenure-track/>

公募概要

http://www.cris.hokudai.ac.jp/tenure-track/modules/pico02/index.php?content_id=14

公募詳細

http://www.cris.hokudai.ac.jp/tenure-track/modules/pico02/index.php?content_id=10

理学研究院地球惑星システム科学分野

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/sys-web/sys-web/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 7 日送信しました)

○ 2012 年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

1. 三宅賞

対 象：地球化学に顕著な業績を挙げた研究者

表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金 30 万円、毎年 1 名

2. 奨励賞

対 象：1972 年 4 月 2 日以降に生まれた方で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者

表彰内容：賞状および賞金 10 万円、毎年 1～2 名

3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績などを記入し、主な論文 10 編程度(三宅賞)、2 編程度(奨励賞)を添えて、下記のあて先へ送付して下さい。

応募書類等は三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ用いられます。

4. 締切日：2012 年 8 月 31 日(必着)

5. 地球化学研究協会ホームページ：
<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/index.html>
6. 応募書類送付先：
 〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5
 三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ
 (公益信託) 地球化学研究基金 植崎則久
7. 問合せ：電子メールで下記アドレスをお願いします。
 E-mail：eitaro1939@yahoo.co.jp
 または：t-sagi@m3.gyao.ne.jp
- (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月8日送信しました)

○2012年度「信州フィールド科学賞」募集

【信州大学山岳科学総合研究所】

1. 募集対象
- ・「信州フィールド科学賞」
 山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者(2012年度末で35歳以下)を対象とします。研究対象や分野は問いません。
 - ・「信州フィールド科学奨励賞」
 I種：陸域の自然・文化を対象にフィールド・ワークを行っている高校生を対象とします。
 II種：「山」におけるフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学の(過去3年間に提出された)卒業論文を対象とします。
2. 受賞
- ・「信州フィールド科学賞」：受賞者は毎年度1名とします。信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞10万円を贈呈します。
 - ・「信州フィールド科学奨励賞」：受賞者は毎年度I種：1件、II種：1名とします。それぞれに、信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞5万円を贈呈します。
3. 募集期間 2012年4月1日～7月2日
4. 応募方法
- 応募の書式は山岳科学総合研究所のWebサイト「<http://ims.shinshu-u.ac.jp/>」からダウンロードしてください。
- ・「信州フィールド科学賞」
 自薦を基本とし、応募の際に必要な書類は、山岳地域におけるフィールド・ワークの実績
 - ・今後の展開と「山岳科学」での研究の位置づけなどを2000字程度(A4用紙で2枚以内)にまとめた調書、研究業績調書(口頭発表を含む)及び論文等の

別刷です。

・「信州フィールド科学奨励賞」

I種(高校生)：応募の際に必要な書類は、活動実績を示す調書、調査活動によって得られた成果をまとめたもの及び所属高校長の推薦書です。

II種(卒業論文)：応募の際に必要な書類は、「山」におけるフィールド・ワークの実績と卒業論文の要旨を2000字程度(A4用紙で2枚以内)にまとめた調書、卒業論文のコピー及び指導教員による推薦書です。

5. 選考方法

応募者のなかから受賞候補者を選考委員会が選考し、山岳科学総合研究所運営委員会の議を経て、山岳科学総合研究所長が受賞者を決定します。

6. 授賞式

授賞式は2012年11月10日(土)に松本市で行い、受賞者の講演及び受賞者の研究分野に関連する内容のシンポジウムを併せて実施します。

7. 応募書類の送付先および問い合わせ先

応募書類は郵送または持参するとともに、電子ファイルとなっている調書等についてはメールへの添付書類でもお送り下さい。郵送の場合は、2012年7月2日(月)必着をお願いします。

信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム

〒390-8621 松本市旭3-1-1

電話：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

e-mail：suims@shinshu-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月10日送信しました)

○平成24年度共同利用の2次公募について

【東京大学地震研究所】

1. 公募事項(公募要領を参照)

(1) 共同研究

(2) 研究会

2. 申請資格：国立大学法人、公、私立大学及び国、公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。

3. 申請方法：「所定の様式」による申請書に必要な事項を記載のうえ、研究代表者より下記提出先宛に提出してください。

4. 研究期間：研究期間は、平成24年採択日から平成25年3月までとする。

5. 審査の方針：本研究所共同利用委員会では提出された申請書を審査し採否を決定します。研究計画の内容が各種共同利用の趣旨に沿っていることが重要です。また、本研究所との研究活動の関連性や施設・装

置・データとの関連性も審査の対象となります。

6. 申請期限：平成 24 年 5 月 7 日（月）【厳守】
※本紙必着
7. 申請提出先：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所研究支援チーム
電話：03-5841-5677
E-mail：k-kyodo@eri.u-tokyo.ac.jp（今年度より変更）
※メールにて提出された場合でも本紙は必ず郵送願います。
8. 採否の決定：共同利用の採否は、本研究所共同利用委員会が決定します。採否の決定は、平成 24 年 6 月上旬までに行われ、結果を申請者に通知します。
9. 所要経費：共同利用に必要な経費及び旅費は、予算の範囲内において地震研究所が支出します。
10. 報告書：共同利用者は、研究期間終了後 30 日以内に公募要領記載の様式による報告書 1 部を電子媒体にて研究支援チーム（研究協力担当）へ提出してください。なお、本所の共同利用で行われた研究に関する論文を発表する場合は、謝辞に本共同利用による旨の文章を入れてください。
11. 宿泊施設：本研究所には宿泊施設がありませんので、各自用意してください。
12. 注意事項：
 - (1) 施設等の利用にあたっては、本研究所の規程、その他関係法令を遵守するとともに、管理・安全のために発する所長の指示に従っていただきます。
 - (2) 予算の執行、研究の実施、設備の利用については、所内担当教員と十分に連絡を取り、かつ、関係する教員の指示に従ってください。
 - (3) 本学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また学生が共同研究に参画される場合は、(財)日本国際教員支援協会の損害保険「学生教育研究災害障害保険（学災教）」等に加入してください。（証明書等の提出は不要）
 - (4) 本共同利用によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に対応教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については協議の上、決定いたします。
 - (5) この他、公募に関するお問い合わせは研究支援チーム（研究協力担当）へお願いします。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 16 日送信しました）

○ GCOE 地球惑星物質分析スクールのご案内

東北大学 GCOE プログラムで本年度開講する「GCOE 特別演習・地球惑星物質分析スクール」では、全国の大学院修士・博士課程学生の参加を募集します。実習の内容や日程は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.gcoe.es.tohoku.ac.jp/seminar/analysis2011.htm>

実習の性質上、各実習課題ごとに数名程度の実習生があります。後期博士課程学生のみ、申込み順に 10 名程度、旅費の支給ができます。東北大学 GCOE 以外の大学院生で参加をご希望の方は、ホームページにある申し込みフォームやシラバスに従い 2 月 8 日（水）までにお申込みください。

申し込みおよび問い合わせ先：

東北大学大学院理学研究科地学専攻 奥村 聡

sokumura@m.tohoku.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 26 日送信しました）

○高校生と大学生・大学院生の交流企画協力学生募集のお知らせ

火山学会の皆様

日本地球惑星科学連合広報・普及委員会から「高校生と大学生・大学院生の交流企画の協力学生募集」のお知らせです。

日本地球惑星科学連合は、2012 年連合大会において高校生を対象としたイベント「大学生・大学院生に地球惑星科学について聞いてみよう」を開催いたします。この高校生との交流イベントに協力して頂ける大学生・大学院生を募集しています。

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.jpgu.org/meeting/highschool/outreach.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 5 日送信しました）

○三朝国際インターンプログラム 2012のご案内

岡山大学地球物質科学研究センターでは、三朝国際インターンプログラム 2012 参加者を募集しています。2012 年度につきましては、下記研究分野について 2012 年 7 月 2 日（月）～8 月 10 日（金）にわたり実施いたします。

実験地球物理学分野：マルチアンビル装置、ダイヤモンドアンビル装置、ピストンシリンダー装置、内熱式ガス圧装置などを用いた高圧実験、天然及び合成岩石、鉱物、メルト、ガラス、流体などの物性測定、X 線回折法や各種分光法による構造解析など

応募の締め切りは平成 24 年 5 月 7 日（月）です。

詳細は下記 HP をご覧ください。

(日本語) <http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/jp/announcement/?eid=00732>

(英語) <http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/eng/announcement/?eid=00732>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月5日送信しました)

○ AOGS-WPGM abstract 延長 (セッション SE85) 火山学会員の皆様

8月13-17日に開催される AOGS-AGU (WPGM) Joint Assembly の abstract 登録締切が3月21日まで延長になりました。

<http://www.asiaoceania.org/aogs2012>

以下のセッションを設けています。奮ってご参加ください。

Session Title SE85 Time scales of magmatic evolution and eruption in intermediate to silicic magmatic systems Convener (s) Prof. Shanaka de Silva (Oregon State University, United States), desilvas@geo.oregonstate.edu Prof. Michihiko NAKAMURA (TOHOKU Univ., Japan), nakamm@m.tohoku.ac.jp Dr. Phil SHANE (University of Auckland, New Zealand), pa.shane@auckland.ac.nz

なお以下のような関連セッションもあり、連続したプログラムになるよう調整中です。

SE105 Magmatic processes and possible links to volcano monitoring data

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月14日送信しました)

○ AOGS-WPGM abstract 延長 (セッション SE107) 火山学会員の皆様

8月13-17日に開催される AOGS-AGU (WPGM) Joint Assembly の abstract 登録締切が3月21日まで延長になりました。

<http://www.asiaoceania.org/aogs2012>

以下のセッションを設けています。奮ってご参加ください。

SE107: Magma transport through dikes, sills and conduits: Insights from modelling and field measurements

Conveners: Benoit Taisne (IPGP) and Yosuke Aoki (ERI) The dynamics of magma transport in the crust via dikes, sills and conduits condition to a great extent the evolution and eruptive behavior of volcanic systems. They also induce geophysical and geochemical signals that can be monitored at the surface. The aim of this session is to bring together a wide community of researchers to gain new insights and better

constraints on magma transport and evolution within the crust as well as on volcanic unrest and eruptive activity.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月14日送信しました)

○ EPS 誌についてのアナウンス

火山学会の皆様

火山学会が運営に関係しています EPS 誌 (Earth, Planets and Space) について、アナウンスさせていただきます。

- (1) 2012年4月1日より、電子投稿システムによる投稿受付・査読・編集を行うこととなりました。Editorial Manager というシステムです。これによって査読の迅速化等、プロセスの改善をはかる予定です。

論文を投稿される方は以下 URL からログインをお願いいたします。

<http://eps.edmgr.com>

- (2) 2012年3月末より、EPS 誌の HP を一新しました。以前と同じ URL になりますが、以下をご覧ください。

<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS>

- (3) 昨日より 2011年3月出版の論文まで Open Access となりました。これは、2011年12月に EPS 編集・運営合同委員会で打ち出されたポリシーに基づくものです。これによって出版から1年経過した論文のダウンロード数および引用度数の増加が期待されます。

(EPS 運営委員・金子隆之)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月11日送信しました)

○ 観測研究計画に係るパブリックコメントについて

火山学会会員の皆様

皆様には、日頃から全国の大学・研究機関が協力して実施しております

「地震及び火山噴火予知のための観測研究」(平成21~25年度)にご支援ご協力を賜り、大変ありがとうございます。

このたび、平成23年東北地方太平洋沖地震の発生を受けて、研究計画を見直す「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の見直しについて」を、科学技術・学術審議会で審議頂いております。その過程で、国民の皆様からより広い意見を集めるようにとの指摘を受けましたことから、

現在、以下のサイトでパブリックコメントの募集を行っております。

つきましては、皆様からご意見を賜ると同時に、周辺の方々にもお伝え頂き、広く意見が集まりますようご協力よろしくお願いたします。

■「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の見直しについて

(審議経過報告)」に関する意見募集の実施について

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMSTDETAIL&id=185000576&Mode=0>

以上

東京大学地震研究所

地震・火山噴火予知研究協議会 企画部

E-mail: yotikikaku@eri.u-tokyo.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月23日送信しました)

○地球惑星科学連合大会のお知らせ

日本火山学会会員の皆様

日本火山学会大会委員会

地球惑星科学連合2012年大会(5/20-25, 幕張メッセ)では、火山学会が提案母体となっているセッションが以下の通り、多数開催されます。

皆様の積極的な発表を期待しています。

予稿投稿期限は

最終投稿締切: 2/17(金) 12:00

となっています。

<http://www.jpgu.org/meeting/submission.html>

より投稿してください。

なお、今大会ではポスター発表を希望する場合、ポスター会場でのポスター掲示説明の他に、口頭発表会場での3分間の概要説明も実施することができます。概要説明にはプロジェクトを使用可能ですが、質疑応答はできません。予稿原稿投稿基本情報画面の5番目に、「口頭発表を行う」か「口頭発表を辞退する」かの選択枝がありますので、そこで口頭発表の有無を選択してください。

日本火山学会が提案母体となっているセッションの一覧

■固体地球科学(S) 火山学

●S-VC49 火山の熱水系

コンピーナ: 藤光康宏・鍵山恒臣・篠原宏志

マグマと地表との間には、異なる地学環境の中で、多様な熱水系が生じている。熱水系の理解は地球システムの理解に寄与するとともに、地熱エネルギー利用或いは火山噴火予知においても欠かすことはできない。本セッションでは火山の熱水系に関して、地球物理・地球化学・地質学・貯留層工学的立場からの地下構造及び熱と流体の流れに関する議論を集中的に行う。理論・観測・実験

いずれの立場からの研究も歓迎する。

●S-VC50 活動的火山

コンピーナ: 青木陽介・市原美恵

活動的火山の噴火や火山活動に伴う諸現象、火山体構造、災害予測やその軽減などについて各種地球物理・地球化学観測・地質学的調査などにに基づき学際的立場で議論する。歴史噴火や各種観測技術の開発に関する話題も歓迎する。

●S-VC51 リアルタイム火山災害予測—基盤整備から開発まで

コンピーナ: 萬年一剛・宝田晋治・佐々木寿・藤田英輔

火山噴火の発生を予知することは計器の整備によりある程度可能になってきているが、噴火の様式を予想することは難しい。従って防災の観点からは、噴火の進行とともに直近の未来を予想し避難行動に役立てる「リアルタイム火山災害予測」の実現が強く望まれる。この実現には、火山の地形、過去の噴火実績などのデータベース作成と運用技術、噴煙・溶岩流・火砕流・岩屑なだれ・土石流等のシミュレーション技術、それらの結果を住民や行政の判断に資する形に加工する表現技術や、そのバックグラウンドとなる社会学的・心理学的研究など、広範囲にわたる技術基盤と知識の整備と共有が必要である。本セッションでは、こうした広範な技術および知識基盤のレビューおよび、個々の技術の理論、開発、適用事例に関する発表を広く募り、リアルタイム火山災害予測の実現に向けた取り組みを加速することをねらいとする。本セッションではその他、関連する純火山学的な研究や、具体的な火山災害事例に関する発表も歓迎する。

●S-VC52 火山とテクトニクス

コンピーナ: 下司信夫・三浦大助・西村卓也・古川竜太

さまざまな時間・空間スケールの火山・マグマ活動のメカニズムを、火山体やその基盤をなす地殻におけるテクトニクスの観点から幅広く議論する。地球物理学、物質科学、地質学的手法を融合し、火山活動とテクトニクスの相互関係の理解を深めることを目標とする。

主な対象は、火山の深部構造、マグマ溜まりや様々な規模の貫入岩体の形成メカニズムやその安定・不安定性、ダイクの成長・定置過程、近接する地震と火山噴火の関連性、カルデラ形成を伴う巨大噴火の準備過程や噴火プロセスなどを予定しているが、そのほか陸上・海底・地球外惑星など幅広い火山とテクトニクスに関する議論も歓迎する。地球物理学、物質科学、地質学といった分野間の融合を意識した発表を歓迎する。

●S-VC53 火山・火成活動とその長期予測

コンピーナ: 及川輝樹・三浦大助・石塚吉浩・下司信夫

マグマ発生から移動・蓄積、マントルや地殻との相互

作用、脱ガス、噴火様式、火山活動の長期予測、噴出物の運搬・定置過程など、マグマの挙動の各過程に関する話題を議論する。

また、噴火の確率論的な研究、短・長期的な火山・火成活動史、マグマの物性や各種技術の開発に関する話題も対象とする。

● S-VC54 火山噴火のダイナミクスと素過程

コンピナー：小園誠史・鈴木雄治郎・奥村 聡

火山・火成活動現象とそれらを支配する微視的な現象を統一的に理解するための試みについて議論する。噴火の準備過程、マグマ上昇過程、噴出物挙動などのダイナミクスと素過程の基礎研究や、現象の階層を横断して理解するための手法開発についても議論したい。研究手法は問わず観測・実験・数値計算などの幅広い分野からの発表、また火山・火成活動現象の理解において重要な分野横断型研究の発表も歓迎する。

■ 固体地球科学 (S) 複合領域・一般セッション

● S-CG04 Creation and Destruction of Continental Crust by Plate Tectonics (大陸地殻の生成と破壊)

コンピナー：田村芳彦・ロバート スターン・巽 好幸

Continental crust today is mostly generated by arc magmatism above subduction zones, but also at hot-spots and rifts. Today, there are approximately 7 billion cubic kilometers of continental crust (Cogley, 1984) and it is often assumed that continental crust volume has been growing over Earth history. However, it is clear from truncations of ancient orogenic belts and the presence of > 4.0 Ga zircons that much Precambrian continental crust has been destroyed, mostly by tectonic erosion at subduction zones. Moreover, lower crust foundering and decratonization might also be important destroyers of continental crust. At present, creation and destruction of continental crust is either in balance or more crust is being destroyed than created; the uncertainty comes from unknown deep losses of continental crust at collision zones and due to lower crustal foundering. This session seeks to understand how continental crust is produced and destroyed today and the recent geologic past? We ask this question to a broad range of geologists, geophysicists, geochemists and petrologists who are interested in crustal evolution.

■ 地球人間圏科学 (H) 社会地球科学・社会都市システム

● H-SC24 人間環境と災害リスク人間環境と災害リスク

コンピナー：鈴木康弘・小荒井衛・須貝俊彦・宇根寛・中村洋一・長坂俊成・松本 淳

自然と人間が織りなす多様な環境の中に内在し、時に顕在化する災害リスクを、自然科学、人文・社会科学等の視点から多角的に検証する。東日本大震災で明らかに

なった災害予測の不確実性や低頻度巨大災害の問題や、ハザードマップの作成・利用法の改善、環境変動・社会変容や持続性を考慮した復興計画・国土計画、防災に関する国際協力、活断層や液状化の諸問題、地域特性に応じた減災計画、防災支援の技術開発など、総合的に議論する。

■ 領域外・複数領域 (M)

● M-IS25 津波堆積物津波堆積物

コンピナー：後藤和久・宍倉正展・西村裕一

2011年東北地方太平洋沖地震・津波以降、津波堆積物を用いた低頻度巨大津波のリスク評価に関する研究の社会的重要性が高まっている。しかし、津波堆積物研究は発展途上の分野であり、認定基準やその活用方法は確立されたものではない。本セッションは、地震やその他の要因で発生した津波に伴い形成された陸上および海洋底堆積物を適切に認定し、今後の津波防災対策に生かすための議論の場とすることを旨とする。

● M-IS32 ジオパーク

コンピナー：目代邦康・渡辺真人・林信太郎・有馬貴之
ジオパークにおける科学的な活動を深化させるため、基礎となる地球惑星科学的遺産の評価や、その保全方策の検討、また地域活性化の方策、あるいは行政や教育との連携、情報の発信方法など、ジオパークに関わる諸分野について議論したい。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月8日送信しました)

○ 連合大会中における科研費説明会のご案内

火山学会会員のみなさま

地球惑星科学連合大会中における日本学術振興会科研費説明会のご案内です。

ふるってご参加ください

記

日時：2012年5月22日(火) 17:15-18:15

場所：幕張メッセ国際会議場 105号室

主催：日本学術振興会学術システム研究センター

内容：科研費を巡る予算動向、科研費および特別研究員の採択動向、科研費および特別研究員審査システム、学術システム研究センターの仕事などにつき、学術振興会担当者が説明をし、みなさんからの質問にお答えします

説明者：日本学術振興会研究事業部研究助成第一課長 松本昌三および 日本学術振興会学術システム研究センター企画官 樋口和憲

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月2日送信しました)

○火山学会のホームページ関連のサーバが変わりました
(再送)

※再度のご連絡です

(1) 火山学会のホームページのアドレスが2月1日から <http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/> に変更になりました。

ブックマークやリンクを設定していた方は、アドレスの変更をお願いいたします。

なお、移行期間として、2月1日から2月29日までは、これまでの <http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/> の情報更新も行っていましたが、29日以降は、上のホームページを閉鎖します。

(2) 各種の申し込みに対して自動送信される受領メールのアドレスが kazan@wwwsoc.nii.ac.jp から office@kazan-g.sakura.ne.jp に変わります。

メールソフトでフィルタの設定をしている場合には、office@kazan-g.sakura.ne.jp からのメールを受け取れるように設定変更をお願いします。

また、office@kazan-g.sakura.ne.jp は送信専用のメールアドレスのため、こちらには返信メールを送らないようお願いいたします。

(3) 学会事務局のメールアドレスはこれまで通り、kazan@khaki.plala.or.jp です。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月28日送信しました)

○特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙について

2012年2月29日

会員各位

特定非営利活動法人日本火山学会
選挙管理委員会委員長
津久井雅志

特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙について
(通知)

日本火山学会理事選挙規程に基づき、次期理事の立候補を受け付けましたが、下記に示す14名より立候補の届け出がありました。

立候補受付のお知らせで通知しましたように、次期理事定員は14名以内としていましたので、会員による投票は行わず、下記の立候補者14名を次期理事候補とし、5月の連合大会の際に開催される次期総会においてお諮りし、選任していただくこととします。

次期理事候補者 (あいうえお順)

1. 井口正人 京都大学防災研究所
2. 宇都浩三 産業技術総合研究所
3. 大湊隆雄 東京大学地震研究所

4. 金子隆之 東京大学地震研究所
5. 下司信夫 産業技術総合研究所
6. 高田 亮 産業技術総合研究所
7. 寅丸敦志 九州大学大学院理学研究院
8. 中田節也 東京大学地震研究所
9. 中村洋一 宇都宮大学教育学部
10. 藤田英輔 防災科学技術研究所
11. 星住英夫 産業技術総合研究所
12. 萬年一剛 神奈川県温泉地学研究所
13. 森 俊哉 東京大学大学院理学系研究科
14. 山里 平 気象庁地震火山部火山課

以上

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月1日送信しました)

○「火山」57巻1号 目次

「火山」57巻1号より、目次をメーリングリストでアナウンスすることになりました。目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

1. 論説「中部リアトラフ拡大軸における火山活動位置についての考察
—深海曳航式サイドスキャンソナーとしんかい6500による高解像度観察の記録から」
著者：浅田美穂・富士原敏也・海野 進
著者からの一言メッセージ：「背弧拡大系であるリアトラフの中部拡大軸谷底に、中央海嶺系には見られない非対称的な火山・断層分布がありました。成因を陸上火山の観測事実と照らし考えるために是非ともご一読のうえご議論をお願い致します。」
2. 論説「富士火山西麓に分布する玄武岩質火砕流の成因」
著者：前田美紀・宮地直道
著者からの一言メッセージ：「本研究では、ある富士火山玄武岩質火砕流を引き起こした一連の噴火を調べることで、富士火山の火砕流発生機構の新たな可能性に辿り着いたと考えております。この結果が富士火山防災に少しでも役立てば幸いです。」
3. 寄書「北海道・東北地域の火山岩類の予察的熱ルミネッセンス年代—半定量年代測定としての利用例—」
著者：高島 勲・久間木恵
著者からの一言メッセージ：「熱ルミネッセンス(TL)は試料選択を厳密にすることで、信頼できる年代が得られるようになってきました。この寄書のTL

年代は手法確立前の実験なので半定量となっておりますが、有効性は検証できたと思います。」

4. 寄書「火山監視カメラの映像にもとづく噴出物の温度推定」

著者：宮城磯治・前嶋美紀

著者からの一言メッセージ：「火山監視カメラに映った赤熱噴出物の色から温度を見積る方法を、浅間

山 2009 年 2 月 2 日未明の噴火に応用し、600℃程度のほぼ固化した（しかし火山防災上は十分熱い）マグマが放出されたことを示しました。」

=====
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 27 日送信しました)